

夕張川新水路の概要

低平地の洪水氾濫を軽減する治水対策として、千歳川に合流していた夕張川を直接石狩川に流す**夕張川新水路**が昭和11年に完成。平成23年の土木学会選奨土木遺産認定を経て、令和8年で夕張川新水路完成から90周年となる。

夕張川新水路の概要

名称	夕張川新水路（ゆうばりがわしんすいろ）
着手年	大正11（1922）年
完成年	昭和11（1936）年
施設の諸元	延長：11km 川幅：550m程度
所在	北海道 南幌町、長沼町、江別市
管理者	国土交通省 北海道開発局

- 明治の開拓使を設置以降、北海道の人口増大や開拓が進むなか、明治31年、明治37年の洪水により甚大な被害に見舞われる。
- 明治43年より石狩川における本格的な治水事業が開始。
- 石狩川の治水として捷水路（しょうすいろ）、夕張川等の支川では、新水路の整備を実施。



■石狩川治水の開始と時代背景

M 2	開拓使設置
M 8～M 37	屯田兵制度
M 19	北海道庁設置
M 27	日清戦争
M 31	石狩川大洪水
M 37	日露戦争
M 37	石狩川大洪水
M 42	石狩川治水計画調査報告書提出
M 43～	第1期拓殖計画
M 43	石狩川治水事務所創設
T 3～T 7	第1次世界大戦
S 2～	第2期拓殖計画
S 6	満州事変勃発
S 12	日中戦争
S 16～S 20	太平洋戦争

夕張川新水路の整備

M 43	保原元二他、夕張川の測量に着手
T 9	工事開始、栗山、洪川の各治水工場設置
T 11	夕張川新水路工事着工
S 11	夕張川新水路通水

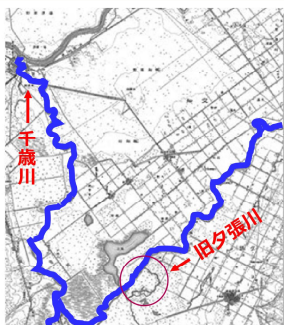
夕張川治水の歴史

旧夕張川の特徴

旧夕張川は、合流先の千歳川とほぼ同じ大きな川で、さらに、洪水時の流量は平常時の約8倍となり、洪水時は大きな被害が発生した。どんなに丈夫な堤防も、必ず破って大氾濫を起こすので、ゆるやかな「女の川」千歳川に対し、「男の川」と呼ばれた。

特に**木詰地区**は地名の通り大量の流木により水の流れを止めることから、「洪水の元凶」と呼ばれた。

川の両側、幌向と長沼の人たちは自分達の田畑と家を守るために競って土のうを積み上げたが、どちらかの堤防が決壊することで、どちらかの集落が守られるというものだった。無事だったほうが「バンザイ」と助かったことを喜びあうことから「万歳堤防」と呼ばれていた。



木詰地区（明治42年頃）



流木で埋まる木詰地区周辺の様子
（北海道大学付属図書館 所蔵）

明治31年の洪水後、木詰地区で川の流れを良くする工事が南幌住民主体で行われた。

この工事の設計を担当したのが、北海道庁技師で、初代石狩川治水事務所長となった**岡崎文吉**である。

夕張川新水路計画の始まり

岡崎文吉が明治42年に道庁へ提出した「石狩川治水計画調査報告文」に基づき、翌年始まった治水事業（第一期拓殖計画）で、旧夕張川の測量調査を担当したのが、岡崎文吉の部下である**保原元二（ほばら もとじ）**だった。

3ヶ月に及ぶ測量調査が終わり、栗山の丘から西の方角を眺めるとき、江別の製紙工場の煙突を遠くに見た保原は、あることを思いつく。「あの煙突を目標に石狩川本流への直線排水路を造るなら、今までの流路10里半（約40km）を3里（約11～12km）に縮小することができる。夕張川の改修はこれ以外にないと、その時に新水路法線のアイデアを私は定めてしまいました」（『西の宮清談』より）。つまり、夕張川の途中から新水路を引くことで江別川（千歳川）を切り離し、石狩川に直接つなげるという計画を立てたのである。



明治37年創業の富士製紙工場（現・王子製紙江別工場）
（北海道大学付属図書館 所蔵）



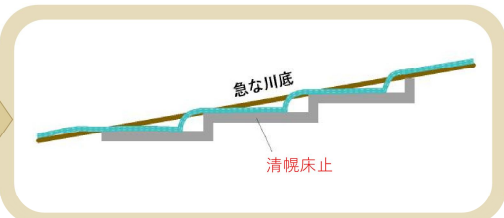
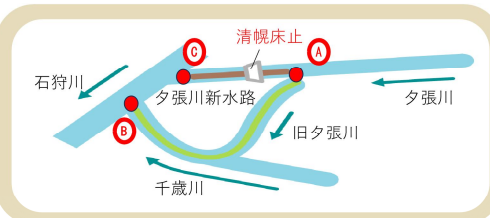
南幌町吏生の恩人
元札幌治水事務所長 保原元二氏
（現在の札幌開発建設部の前身となる組織）



新水路整備後の取組～清幌床止～

夕張川新水路の整備に伴い、洪水に対しては安全になったが、その一方で、川の流が速くなり川底が削られる大規模な洗掘の被害が発生した。洗掘の被害を防ぐことを目的として**清幌床止**が設置された。現在では清幌床止の周辺に多くの人が楽しむ娯楽施設が広がっている。

床止とは



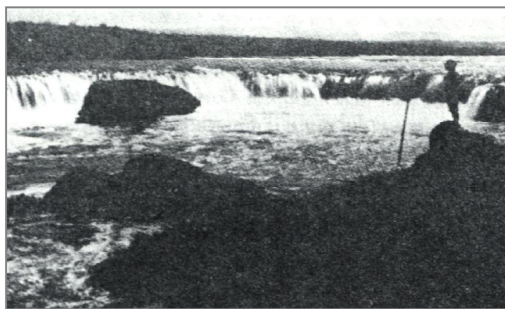
石狩川までの距離が短くなったことで川底が急になり、水の流が速くなることで削られる。

コンクリートを設置することで川底が削られることを防ぐ。

清幌床止の設置と現在

床止の設置と洗掘被害

夕張川新水路は川底が軟弱地盤で泥炭であることに加え、河川を短くしたことによって勾配が急になり勢が増して川底が浸食されることを防ぐため、昭和11年に新水路工事と併せて清幌床止を設置した。しかし、新水路の完成から1年後、約4m落差の「ナイアガラ」のような洗掘が発生した。このままでは床止や清幌橋に支障をきたすため、2基目の床止を下流に増設した。滝が落ち着いたのは発生から11年後の昭和23年といわれている。



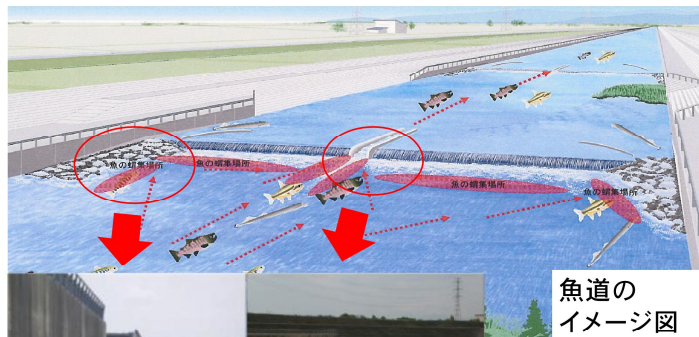
新水路完成後の清幌床止
(石狩川治水史より)



位置図

魚道の設置

清幌床止の設置により、魚が上流へ移動しにくくなったため、平成5年の改築完了と共に魚道を設置。しかし、水量が多く魚道内に泡が発生し、十分な機能を発揮出来なかったため、魚が通りやすくなるように川の両端に補助魚道を整備し、平成22年に現在の魚道が完成した。



魚道の
イメージ図



補助魚道



中央魚道

清幌床止のその後

清幌床止は、昭和63年から平成5年にかけての改築で3基目の床止が設置され3段の滝のような形状となった。水辺に近づける整備がなされ、今ではゴルフ場やキャンプ場を備えた多彩なレジャー空間になっている。

<周辺の主なレジャー施設>



現在の清幌床止



キャンプ場



ゴルフ場



サーキット

その他にも野球場やサッカー場、テニスコートがあり、幅広い方が楽しめる場所となっている。

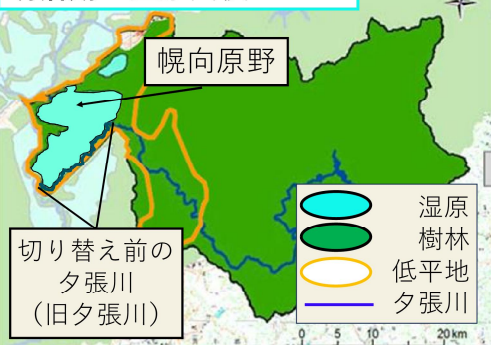


新水路整備後の取組～幌向自然再生地～

夕張川新水路の整備により、流域の通常時の水位が低下し農地開発が飛躍的に進展した一方で、多様な湿生植物が生息する湿原面積が減少した。そのため、幌向自然再生地では湿原環境の再生を目指し、様々な取組を行っている。

湿原面積の変遷

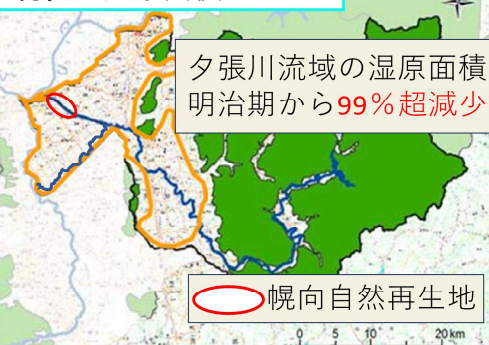
明治期：湿原面積104km²



昭和30年代：湿原面積24km²



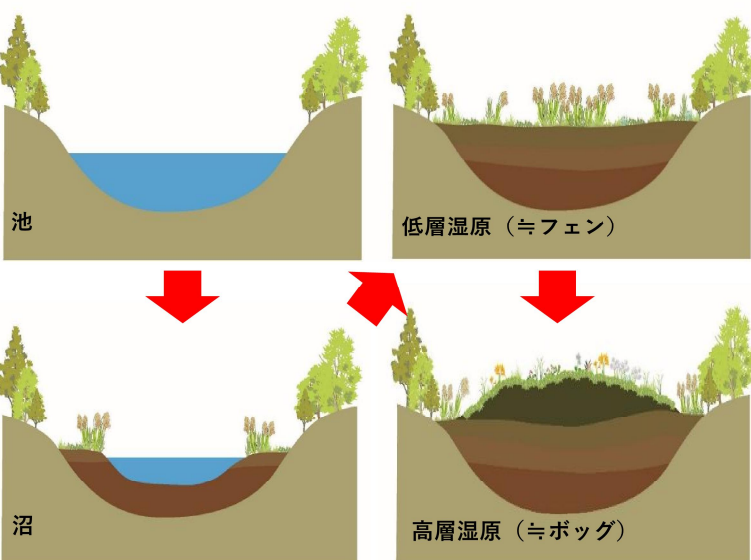
現在：湿原面積0.1km²



幌向自然再生地の取組

ボッグを中心とした湿原環境の再生

泥炭が蓄積している高層湿原のことをボッグといい、枯れた植物が分解されず堆積することで形成される。かつての幌向原野も多くがこの高層湿原（ボッグ）であった。1年におよそ1mmの泥炭が堆積し、長い年月をかけて、フェンと呼ばれる低層湿原からボッグへと向かう。1mの層を作るには1000年かかると言われる希少性の高い環境である。



雨水で涵養するための遮水盛土について

幌向自然再生地の遮水整備前では、段差部分から水分が染み出し、泥炭の乾燥・分解が進行していた。そのため、**ボッグが定着しやすい物理環境の整備**として、**乾燥から守るための遮水盛土**を行っている。

遮水盛土施工前



遮水盛土施工後



幌向原野で発見された「ほろむい七草」

「ほろむい七草」とは、幌向原野で初めて発見され「幌向」の地名を冠する和名を点けられた7種の湿生植物



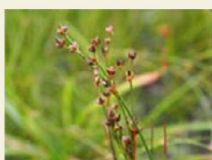
木ロムイロンドウ
※1 環境省レッドリスト記載



木ロムイイチゴ
※2 北海道レッドリスト記載



木ロムイクグ ※1※2



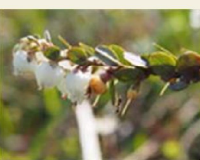
木ロムイコウガイ
※1※2



木ロムイスゲ



木ロムイソウ



木ロムイツツジ



夕張川流域の農業事業

北海道開発局では、水稲作を中心とした農業地帯のひとつである夕張川流域と千歳川流域において、度重なる洪水被害やかんがい用水の不足を受けて、国営夕張土地改良事業や内水排除事業等の農業事業を進めてきた。

農業用水の供給

国営夕張土地改良事業

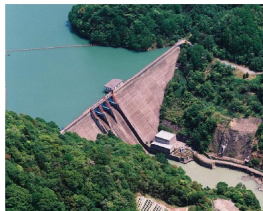
農業用水の確保と発電のために昭和28年より開始。大夕張ダムと川端ダムを建設し、取水施設、農業用水路を整備。下流の農地に安定した農業用水を供給した。

国営かんがい排水事業道央用水地区

夕張川流域では稲作、農業の発展に伴う農業用水の不足に加え、昭和56年水害による被害を受けて、平成7年より大夕張ダムの下流に多目的ダムである夕張シューパロダムと川端ダムの改修および道央注水工の整備を行うことになった。



川端ダム



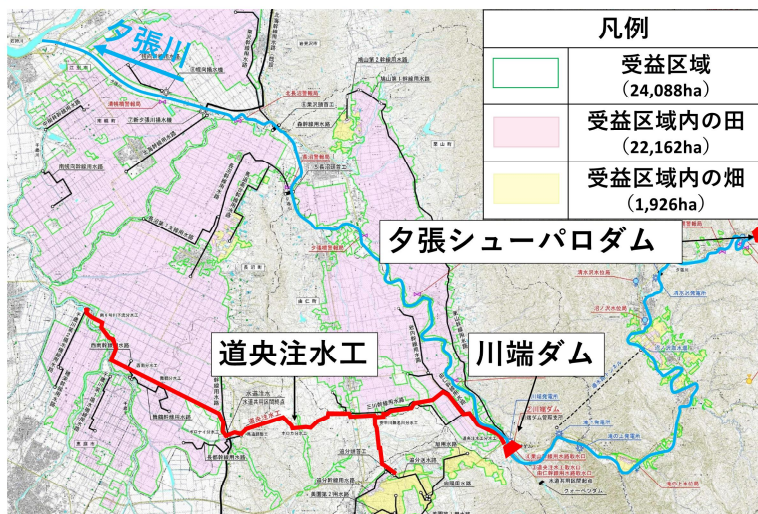
大夕張ダム



夕張シューパロダム

国営かんがい排水事業 受益区域図

夕張シューパロダムと川端ダムから道央注水工を通じて、道央地域の受益区域内の農地（田・畑）へかんがい用水を供給している。



内水排除事業と営農の変化について

内水排除事業について

旧夕張川及び千歳川沿いの低平地では自然排水が困難で内水被害が多発していた。これに対し、昭和36年および37年の洪水を契機として国営土地改良事業による内水排除事業が本格化し、緊急整備が図られた。その一環として内水排除を目的とした排水機場の整備やポンプ増設などにより湛水被害の軽減と農地の排水改良が図られた。

一次整備

内水対策として旧夕張川及び千歳川沿いに排水機場を設置。さらに排水機場の能力に対応出来るよう幹線排水路を整備した。主に馬追運河排水機場、幌向運河排水機場、西長沼排水機場等が設置された。



幌向運河排水機場



西長沼排水機場

二次整備

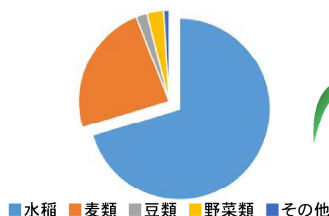
一次整備後、地域における湛水被害解消や老朽化施設の改修を目的とした国営かんがい排水事業（内水排除事業）が実施された。主に、排水機場のポンプの増設や老朽機器の更新等の排水能力の引上げを実施。

旧夕張川流域の営農の変化について

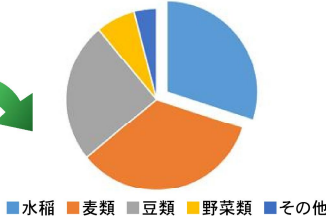
流域内の農業の変化について

国営大夕張事業等により、地域の農業水利施設が整備されたことで、水稲を中心とした農業経営が展開されていた。その後内水排除事業の二次整備の実施により、農地の排水が良好になったことで、畑作物の安定した作付けが可能になり、麦類、豆類及び野菜類の作付面積が増加し、消費者の需要に合わせて水稲と畑作物を組み合わせる農業経営に変化した。

旧夕張川流域の作付作物の割合（S55）



旧夕張川流域の作付作物の割合（R2）



■水稲 ■麦類 ■豆類 ■野菜類 ■その他

資料：農林業センサス（南幌町、長沼町）



内水排除事業の二次整備が行われた直後の水田が広がる旧夕張川流域



全道2位の作付面積を誇る長沼町のブロッコリー



夕張川流域河川の利活用

北海道開発局では、地域住民、関係機関との連携・協働を図り、夕張川流域の河川を積極的に活用することで、豊かな自然の再生や地域の活性化に取り組んでいる。

川の環境学習

令和7年7月4日（金）ゆうばり小学校

場 所：夕張川支川ホルカクルキ川
内 容：川歩き、生き物採取、観察と説明、川流れ
参加者：小学4年生17名
※平成18年から継続中



魚とり体験

流れることで水の冷たさ、
流れの強さ、流れ方から
自然の川を体感。

水の流れを見て、どこが
浅くて深いか、魚はどこ
にいるかを学習。



川流れ体験

令和7年7月11日（金）由仁小学校

場 所：夕張川支川ポンウエンベツ川
内 容：川歩き、生き物採取、生き物観察と説明
参加者：小学3年生20名
※平成17年から継続中



魚とり体験

生き物の生息場所を知り、
つかまえた魚を観察する
ことで名前や特徴を学習。

川に岩や砂利、砂や泥があること、
同時に滑りやすいことを体験。



つかまえた魚の観察

幌向自然再生地での活動

幌向小学校環境学習

幌向小学校の総合学習「幌向学」における湿原学習と
苗移植活動を実施している。※令和4年から継続中



事前学習教材
「ほろむい 湿原再生ガイドブック」
湿性植物の苗300株を移植。



移植体験

地域との関わり

地域主導での持続性のある管理体制を確保する取り組み
を実施している。

ミズゴケのじゅうたんを 広げようプロジェクト

ミズゴケ群落を域外で保全し“再移植”につなげる循環型モデルを構築
するプロジェクトで、札幌市環境プラ
ザと北海道環境カウンセラー協会の
イベントで命名された。



ヤチヤナギの利活用

地域おこし協力隊を中心に、開発業者の協力を得てヤ
チヤナギを原料とした利活用商品の開発・製品化に取り
組んでいる。



バスソルト



ビール



ソーセージ



ヤチヤナギの実



ヤチヤナギの葉



クラフトジ

ほろむい七草の会

関係者によるミーティングを定期的の実施し、有志を
募って保全活動をしている。



国土交通省
北海道開発局 札幌開発建設部 江別河川事務所

令和4年
南幌町子ども
室内遊戯施設
はれっば開業